

# I'm home.

high end design and lifestyle

隔月刊 アイムホーム 1・3・5・7・9・11月の各16日発売

2008  
JULY, no.34

[www.imhome-style.com](http://www.imhome-style.com)

The Belgian Styles From Flanders vol.2

Kitchen Inspiration

Ring of Skip Floor

空間を緩やかにつなぐスキップフロア

Spirit of Japan 小川治兵衛の庭

make our キッズルームを考える

# KID'S ROOM



make our  
**KID'S ROOM**







# CASE STUDY

## PLAN & DETAILS - 01

プレイスペースを介してつなぐ色彩豊かな三つのキッズルーム

E邸 東京都

設計/城戸崎建築研究室 インテリアデザイン/CL Sterling & Son, LLC

撮影/ナカサ&パートナーズ 文/Im home.



大きな窓から明るい太陽の光が差し込む広々とした子ども部屋には、ゆったりとした空気が流れている。それぞれの個性に合わせてつくられた色彩豊かな空間で、三人の子どもたちは創造力を育みながら伸び伸びと成長していく。

ブティックやカフェが立ち並ぶ大通りから一步入った都心の住宅街。重厚感漂うエントランスを入ると、正面に広々とした庭が迎えてくれた。どの部屋からも庭が眺められるようガラスを多用した室内は、一日中温かな光に満ちている。この住まいに暮らすのが、イギリス人の夫と日本人の妻、そして11歳になる双子のKくんとSくん、10歳のYちゃんだ。

ファミリーリビングや子ども部屋が配された2階に上がると、すぐ右手にYちゃんの部屋とバスルーム、その奥にグリーンの壁面が印象的なブレイルーム、KくんとSくんの部屋が続く。子ども部屋はそれぞれ30㎡以上の広さで、高さ2.6mの天井や間口いっぱいの大きな窓と相まって、ゆとりある雰囲気にあふれている。

子どもたちに明るく開放的な部屋を与えたいと考えた夫妻は、建築家の城戸崎博孝さんに設計を依頼。城戸崎さんは10通り以上もの模型と共にプランを提案し、一つひとつ検討しながら、最も子どもたちにふさわしい空間をつくった。

その際、最大のポイントとなったのがバスルーム。日本では一般的に、プライベートとゲストの二つがあれば十分だが、欧米では一人につき一つが基本。そのため、三人の子どもたちそれぞれにバスルームを用意する案も検討されたが、「広々とした子ども部屋」という夫妻の要望によって、KくんとSくんはバスルームを共有することに。ただし、プライベートな空間であるため、各部屋から直接アクセスできるプランが望ましいと考え、バスルームを中心に二人の部屋を振り分けた。それにより、バスルームが動線の一部となり、各部屋をほど良くつなぐ緩衝地帯のような役割を果たす。

そして何よりユニークなのが、三人の個性に合わせてしつらえたインテリアだ。Yちゃんの部屋には天蓋<sup>てんがい</sup>付きのベッドを配し、女のらしい淡い色合いを用いて柔らかな雰囲気。また、科学に興味を抱くKくんの部屋は“アドベンチャー”をテーマに気球を描いたファブリックを取り入れ、どこまでも続く大空のようなイメージを基に青で統一した。一方、アクティブなSくんの部屋は“サファリ”をテーマにさまざまな動物が描かれたファブリックを使用し、エネルギッシュな赤でまとめたといったように、それぞれの好みを反映したコーディネートに仕上がっている。

子ども部屋のインテリアを担当したのが、アメリカの照明メーカー、CL Sterling & Sonのデザイナーであり、世界的に活躍するインテリアデザイナーのPeter Carlson（ピーター・カールソン）だ。夫妻とは旧知の仲で、以前暮らしていたイギリスの住まいも彼が設計。子どもたちの性格を十分に把握している彼だからこそ、アメリカにいながら、ファブリックや壁材、塗装、照明に至るまで、三人に最も適したインテリアを実現できた。

この住まいが完成して5年の歳月を経た現在、子どもたちの成長に合わせて、ブレイルームに本棚が増設されるなど、住まいも変化の時を迎えている。ディテールにまでこだわった美しく品格のある空間は、ファブリックやラグを変えることで、長く使い続けることが可能だ。何より子どもたちは冒険や空想の世界を大切にしながら、五感を養っていくだろう。







右頁上／バスルームからKくんの部屋を見る。バスルームには下着やタオルなどを納める収納カウンターを用意。高さ545mmと低めに設定しているため、自分で身支度ができる。このスペースは、Sくんの部屋へアクセスする動線の役割も果たす。カウンター上のシルバーのテーブルランプは、アメリカの照明メーカー、CL Sterling & Sonの「TAPERED TABLE LAMP」 右頁下／シルバーを基調としたウサギ柄の壁紙が楽しい気分を演出。洗面カウンターは高さ850mmと大人が使用するサイズなので、現在は踏み台を利用している

上右／Sくんの部屋は“サファリ”がテーマ。寒色で統一したKくんの部屋とは対照的に、暖色を基調としたコーディネートと円型のモチーフが特徴だ。二人の部屋はほぼ左右対称のプランだが、インテリアが異なるだけで雰囲気が一変し、個性豊かな空間に仕上がっている 上左／マットレスは市販のものだが、収納に描かれた柄に合わせて、円型のベッドヘッドをオリジナルで製作。ガラスの脚部が美しいテーブルランプは、CL Sterling & Sonの「ROCK PILE TABLE LAMP」 左／ベッドカバーと同様、カーテンも赤いサファリ柄で統一。赤を基調とした男の子の部屋は斬新な印象だが、力強い色合いはダークブラウンのラグや床のオーク材と調和して落ち着いた雰囲気漂わせている







# P.069

「D邸」

設計／今永環境計画



## Owner Questionnaire

- 1.環境 日差し(光)、温度 2.家族の部屋、居場所(家族の関係、間取り) 3.デザイン(形、色、照明などすべて) 4.信頼感・安心感(デザイナー、施工者に対して) 5.予算

## Data

所在地: 東京都 工事種別: 一戸建て 新築 用途地域地区: 第一種中高層住居専用地域 建ぺい率: 制限60% > 実効58.49% 容積率: 制限160% > 実効124.04% 構造と規模: RC造 一部S造 地下1階 地上3階建て 敷地面積: 202.84㎡ 建築面積: 118.66㎡ 床面積: 地下1階117.75㎡ 1階110.07㎡ 2階115.68㎡ 3階61.3㎡ 合計404.8㎡ 工期: 2006年7月3日~2007年6月23日 設計: 今永環境計画 今永和利 施工: 渡辺組 藤本浩和 設計・施工協力: 構造設計/山崎亨構造設計事務所 山崎 亨 和田謙生 空調・電気・給排水衛生設備/波田野設備設計事務所 波田野善政 キッチン設備・家具・什器/STUDIO KAZ 和田浩一 照明設備/FOR LIGHTS 植葉 裕 鳥居龍太郎

### ◆主な仕上材料

〈外部〉屋根/コンクリートの上断熱材t25充填(スタイロフォーム) シート防水 外壁/コンクリート打ち放し薄塗りモルタルの上アクリルシリコン樹脂系塗料塗布 開口部/特注スチールサッシ 屋上テラス/ゴムチップ舗装 中庭/白玉砂利洗い出し仕上げ 一部芝生張り 〈内部〉床: 子ども部屋・3階ブレイエリア/フローリングt12貼り(ビュアナチュラ/ボード) 地階ブレイエリア/電気式床暖房敷設ビュアナチュラt12貼り 3階浴室・洗面室・トイレ/タイル200角貼り(ビュアフロア/INAX) 壁: 子ども部屋・地階ブレイエリア/PBt12下地EP塗装 3階ブレイエリア/スチールサッシ+ペアガラス遮熱フィルム貼り 3階浴室・洗面室・トイレ/タイル200角貼り(ミスティネオ/INAX) 天井: 子ども部屋・地階ブレイエリア・3階ブレイエリア/PBt12下地EP塗装 3階浴室・洗面室・トイレ/防水PBt12下地フル用塗料塗布(ブルコート/大同塗料)

### ◆「家具・機器」仕様リスト

3階浴室: 浴槽(FYS1460RJ/TOTO) シャワー水栓(FG34191/グローエ) 3階洗面室: 洗面カウンター(HOLLVIKEN) 洗面水栓(SOMMEN/以上IKEA) タオル掛け(YT42S6/TOTO) 3階トイレ(ネオレストSD1/TOTO)

### 今永和利

Kazutoshi Imanaga

1962年・東京都生まれ。'85年・早稲田大学理工学部建築学科卒業。'85~'96年・磯崎新アトリエ勤務。'97年・ロンドン大学バウハウス大学院修了。2000年・今永環境計画設立。作品●2001年 店舗「沼津つむぎや」(静岡県)・'02年 住宅「成城M邸」(世田谷区)・'03年 集合住宅「上野質ストウディオ」(世田谷区)・'04年 住宅「T邸(白いおもちゃ箱)」(世田谷区) no.20に掲載・'06年 住宅「光の煙突効果」(目黒区)・「水平吹き抜けの家」(埼玉県)・'07年 住宅「D邸」(東京都) no.32に掲載 賞歴●2003年 沼津市優良建築物・'05年 グッドデザイン賞・'06年 あたかな住空間デザインコンペティション特別賞



### 今永環境計画

〒157-0073 東京都世田谷区祐7-2-21-207  
TEL.03-3415-7801 FAX.03-3415-7864  
e-mail: info@imanaga.com  
URL: http://www.imanaga.com/

# P.060

「E邸」

設計/城戸崎建築研究室

インテリアデザイン/CL Sterling & Son, LLC



## Owner Questionnaire

- 1.自然光が降り注ぐ明るい居室 2.フレンドリーで大きなファミリールーム 3.テラスと庭 4.ロケーションとスペース 5.大きな主寝室と子ども部屋

## Data

所在地: 東京 工事種別: 一戸建て 新築 用途地域地区: 第一種低層住居専用地域 第二種中高層住居専用地域 建ぺい率: 64.14% > 実効50.64% 容積率: 148.97% > 実効103.83% 構造と規模: RC造 地下1階 地上3階建て 敷地面積: 796.99㎡ 建築面積: 403.63㎡ 床面積: 地階331.4㎡ 1階348.47㎡ 2階279.83㎡ 3階199.2㎡ 合計1158.9㎡ 工期: 2003年5月~2004年10月 設計: 城戸崎建築研究室 城戸崎博孝 豊田尚子(元所員) 木田佳仁 インテリアデザイン: CL Sterling & Son, LLC Peter Carlson 施工: 水澤工務店 池本和彦 木下進司 設計・施工協力: 構造設計/オーク構造設計 新谷真実 空調設備/日本サマル 電気設備/東和電機商会 給排水衛生設備/岡田設備工業 キッチン設備/モリコーレーション ランドスケープデザイン/SOLA ASSOCIATES 外構・造園/ふじい庭園 映像・音響設備/ヤマギワ

### ◆主な仕上材料

〈内部〉床: 子ども部屋・ブレイエリア/構造用合板t12下地床暖房敷設オーク材フローリングW192貼り(上野住宅建材)UC仕上げ 浴室/防水t20+保護モルタル+スタイロフォームt30+床暖房(配管+保護モルタル)t30敷設+和石t22貼り 壁: 子ども部屋・ブレイエリア/木レンガ+PBt12.5+19.5下地全面寒紗バテシゴキAEP塗装(ベンジャミンムーア) 浴室/ライムストーン貼り(モカクリム)水磨きt22仕上げ 天井: 子ども部屋・ブレイエリア/LGS組みPBt9.5二重貼り下地全面寒紗バテシゴキAEP塗装(ベンジャミンムーア) 浴室/LGS組み耐水合板t12+透湿シート+PBt9.5下地AEP塗装

### ◆「家具・機器」仕様リスト

子ども部屋: ペンダントランプ(Custom hand Blown "Plaid" illuminated Orb/Deborah Czenesko) テーブルランプ(Rock Pile Table Lamp/CL Sterling & Son) ブレイエリア: ペンダントランプ(Astra Sospensione/Arte di Murano) スタンドランプ(Royore Style floor Lamp/Peter Carlson)

### 城戸崎博孝 Hirotaka Kidosaki

1942年・東京都生まれ。'66年・日本大学理工学部建築学科卒業。'66~'75年・松田平田設計事務所勤務。'77年・シェフィールド大学修士課程修了。'79~'93年・丹下健三・都市・建築設計研究所勤務。'93年・アーキテクトファブ共同主宰。2000年・城戸崎建築研究室設立。作品●2005年 理想室・茶室「平山郁夫 寂静庵」(神奈川県)・住宅「中庭のある家」・'06年 別荘「深緑の家」(長野)・「経井沢旗生邸」(長野)・'07年 病院「竹川病院・ケアセンター」(東京) 賞歴●2006年 グッドデザイン賞・日本建築家協会優秀建築選・'07年 BEST STORE OF THE YEAR 第16回優秀賞・日本建築家協会優秀建築選



### 城戸崎建築研究室

〒104-0061 東京都中央区銀座1-5-12 PH F  
TEL.03-3562-2235 FAX.03-3562-2237  
e-mail: info@kidosaki.com URL: http://www.kidosaki.com

### Peter Carlson ピーター・カールソン

1954年・アメリカ・マサチューセッツ州生まれ。70年代後半から80年代前半に流行したデザインの世界に目覚め、'80年・Peter Carlson & Associates, LLC設立。幅広い人脈を生かし、アメリカを始め、イギリス、香港、日本など、世界各国で活躍。2001年・照明器具専門会社CL Sterling & Son, LLC設立。ニューヨークとロサンゼルスにショールームを構えるほか、現在、デンバー、トロント、ロンドン、香港に支店を持つ。'05年・CL Sterling & Son Japan設立。



### CL Sterling & Son Japan

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-3-22  
TEL.03-3464-3150 FAX.03-5457-1441  
e-mail: info@clsterling.com URL: http://www.clsterling.com

# P.78, 132

「Verstraete Residence」



Interior Designer/Haverhals-Heylen

Architecten Peter Haverhals Frank Heylen

## Data

所在地: ベルギー・セントミッシェル 工事種別: 一戸建て 改装 構造と規模: RC造+S造 地上2階建て 敷地面積: 2400㎡ 延床面積: 500㎡ Interior Designer: Haverhals-Heylen Architecten Peter Haverhals Frank Heylen

### ◆主な仕上材料

〈外部〉屋根/コンクリート 外壁/レンガ白塗装+コンクリート 〈内部〉床: 木+スレートタイル 壁: シダー材貼り+レンガ 天井: 木+重貼り

### ◆「家具・機器」仕様リスト

キッチン: オリジナルキッチン リビング: ソファ(Interni) テーブル イス(以上Charles & Ray Eams) ダイニング: テーブル(DOMANI) テラス: テーブル(Milko) イス(DOMANI)

### Haverhals-Heylen Architecten

ハーバルス・ヘイレン アーキテツ

ベルギー・アントワープを拠点に活動するPeter HaverhalsとFrank Heylenによる建築家ユニット。リノベーションを始め、個人住宅や集合住宅の設計を中心に手がける。

Verstraete Residenceは、ベルギー出身の建築家、Axel Ghysaertが設計した建物をHaverhals-Heylen Architectenがリノベーションを手掛けた。

### Haverhals-Heylen Architecten

Mechelsesteenweg 247, ANTWERP, BELGIUM  
TEL.+03 (0) 281-34-25  
FAX.+03 (0) 281-52-16  
e-mail: hh.architecten@myonline.be



# article summaries

Translation : Saori Hirata  
Photographs : Nacása & Partners

016

## Garden designer Jihei Ogawa

Since 1751, the name, "Jihei Ogawa" has been succeeded to the predecessor's name for generations in "Ueji." The 7th generation descendent, Jihei Ogawa, made Ueji's landscaping an unshaken existence. When it comes to Japanese gardens, the mainstream global perception is that the gardens possess "austere refinement and calmness" but the 7th generation descendent, who is fond of nature, employed water and lots of greens to enrich the garden. The Ueji's spirit that the 7th generation descendent established has been firmly passed onto the 11th generation successor.

The garden called "*Rakusui Teien*" in Kyoto was completed by the 7th generation descendent, Jihei Ogawa in 1909. After World War II, it parted from Ueji but in 2003, the garden was brought up again fabulously by the 11th generation descendent. By this restoration, the garden now has a pond shaped like Lake Biwa in Shiga prefecture. The water in the pond is actually the water from Lake Biwa itself. The garden became like an oasis, gently welcoming visitors of Kyoto, which holds a dignified appearance, fostered by tradition and culture. The restoration revealed the spirit of the 7th generation descendent as well as Ueji's spirit.

The generations of Jihei Ogawa are constantly ahead of trends and keep producing "healing gardens" that incorporate sky, earth and water, giving a radiance and fresh style landscaping to numerous Japanese gardens in Kyoto.

026

## H Residence

The H residence stands in the corner of a residential area in Fukuyama city, Hiroshima prefecture of the Chugoku district. Since the wife's hobby is practicing tea ceremony, the husband decided to build a residence with 4 tea rooms which includes a 4.5 tatami-mat room, an 8-mat room which can be used as a guest room, a small room called "*Koma*" where a tea ceremony can be performed, and finally a room for more relaxed tea ceremonies, where everybody can enjoy tea in a comfortable atmosphere.

Architect Keisuke Maeda received a request from the husband asking him to "please build

a house based on traditions but one that is still compatible to modern times." Therefore, Maeda came up with a plan with a big steel structured roof with an eave which is characteristic of a traditional Japanese house. Under this roof, the indoors and the outdoors are unified in the space. There is a tea room to the east of the 1st floor, and to the west and on the 2nd floor are the living room, the dining & kitchen, bedroom and bathroom. Essentially, a tea room is established as an annex to the house, but the wife offers the tea ceremony dishes she makes in the kitchen, making it obvious that the priority of the tea room is user-friendliness. As you proceed from the entrance that has a water garden on the left, you find a small room and the guest room located in the water garden which has a tea room's earth floor in between. The concrete wall is shaped with 90mm x 90mm cryptomeria board's formwork which is stacked up and has round stainless bars as center cores, displacing back and forth by 3mm. This maximizes the material's quality, while accentuating its Japanese essence.

Moreover, garden designer Zenjiro Hashimoto had a request from the owner to create "a garden which doesn't require troublesome maintenance." Having that as a basis, Hashimoto created 4 gardens of water, earth, rocks and the greens. In each garden, the lighting was installed so one can enjoy 8 different expressions depending on if it's night or day. Also, "*hanchiku*(dirt that is poured in the frame and solidified)" in the alcove of *Koma* and the guest room was produced by Hashimoto and functions as coloring for the tea room.

050

## Talk about kid's room

Recently, the values with regard to residences are changing greatly, and a lot of unique planning can be seen as a result. However, kid's rooms remain standardized. Considering how much influence the environment has on children's values, the role of kid's rooms is significant.

The appearance of kid's rooms in Japan revealed itself around the Taisho period (1912 - 1926). This was the period where women's independence and modernization emerged. During the Showa period (1926-1989), kid's

rooms became more prevalent. However, in the 1970's, an increase in domestic violence along with school-rejection syndrome, caused children to have a tendency to lock themselves in their own rooms, which resulted in a lack of family communication. In a way, kid's rooms were considered to be correlated to an increase in juvenile delinquency and social withdrawal. Even now, this kind of thinking is strong, and as a result, more and more people are paying attention to traffic lines and layout plans as a way to eliminate partitions from kid's rooms.

In this article, we have researched kid's rooms in Japan and have compared and contrasted them with Western concepts. When comparing, we considered the social background and the family dynamic in addition to layout planning and interior designs.

060

## E Residence

The E residence stands in an alley which stems from the main street lined with boutiques and cafes. The E couple lives with their 3 children in this residence. They wanted to give their children big and open rooms, so they asked architect Hirotaka Kidosaki for a layout plan and also asked an interior designer, Peter Carlson, to decorate the house.

